

第3学年国語科学習指導案

日時 平成27年10月1日(木)

授業者 教諭 伊藤 郁子

学級 3年2組(男子18名・女子15名・計33名)

1 単元名・教材名(学習材名)

選んだ一句で歌物語を書こう

教材名(学習材名) 「万葉集」(光村図書・国語3 P143~145)

2 単元について

(1) 教材観(学習材観)

本単元は古人の生活や社会などを想像して読み、古典の心を今に生かすことを目指す。「万葉集」は、現存する最古の歌集であり、日本の和歌文学の始まりであるとともに、為政者や文化人のみならず、農民や兵士など無名の庶民に至るまで幅広い層が、自らの思いを詠んでいる点が世界的に見ても貴重だといえる。感動をありのままに表現した素朴で力強い歌い方に特徴があり、時代を超えてさまざまな感情や自然への畏敬の思いといった人間の心をまっすぐに伝える和歌が多い。技巧に凝りすぎない素直な表現が多く、現代を生きる生徒たちにとっても自身自身の思いと比較したり、重ね合わせたりしながら読み進めることが可能な教材である。

(2) 生徒観

古典について生徒たちは、小学校から幅広いジャンルの暗唱を経験してきている。そのため古典の音読や暗唱に抵抗を示す生徒は少なく、古典には様々な時代の、様々な種類の文章があることも漠然と理解している。

1年次には「いろは歌」「竹取物語」で、文語のきまりや音読を通して古典特有のリズムを学んできた。2年次では「平家物語」「徒然草」を読むことで時代背景や登場人物の特徴を学び、現代に通じるものの見方や考え方についてまとめたり、登場人物の心情や描かれている情景を想像して朗読や群読したりしてきた。

生徒たちは古人のものの見方や感じ方を知ることに対しては興味をもっており、2年次に行った登場人物の視点を変えて文章をリライトする活動では楽しんで書いている様子もみられた。その反面、授業アンケートでは「意味がわかりにくく、歴史的仮名遣いも難しく感じる」「古典の内容理解には自信がもてない」と過半数の生徒が苦手意識をもっていることもわかった。この傾向は詩歌の学習にも見られ、多くの生徒が、技巧を駆使して作られた作品の内容を理解することに難しさを感じているようである。そのため、詩歌や古典の学習ではしばしばペアやグループ学習を取り入れ、生徒自身がお互いを支援しあう活動を取り入れてきた。

(3) 指導観

本単元では凝縮された三十一音にこめられた古人の思いを読み取らせる一方、その背景には三十一音では表しきれなかった歌人のさまざまな思いが隠れていることにも気付かせることをねらいのひとつとする。和歌で表現しきれなかった歌人の思いを拾い上げ、歌物語という形に表現し直すことにより、イメージをふくらませ、自分なりの読みを深めさせていきたい。また、三十一音で自らの思いを表現するために言葉を厳選しつくしたものが和歌であることから、歌物語を構築することにより、そのような日本の伝統文化の良さを見直し、その価値に気付かせたい。

歌物語の設定を考えさせるためには、詞書や作者の状況など読みの手がかりとなる資料を事前に配布し、また便覧や必要に応じて関連図書を使用させる。歌物語は鑑賞文とは異なり、虚構性の強い文章になることは否めない。しかし、和歌の内容から飛躍しすぎないように、読み取った内容や集めた情報を適切に組み合わせながら、文章を書かせるよう留意させたい。

3 単元の目標

【国語への関心・意欲・態度】

- ・和歌をさまざまな見方で読み味わい、自分の意見をもつことができる。

【読む能力】

- ・描写の効果、登場人物の言動の意味、場面や人物の設定の仕方を捉え、内容を理解することができる。(C-I)
- ・文章に表れているものの見方や考え方の違いを整理し、人間や自然などについて考え、自分の考えを深めることができる。(C-E)
- ・和歌についての歌物語を書くために必要な情報を資料から選択し、自分の表現に役立てることができる。(C-O)

【言語についての知識・理解・技能】

- ・歴史的背景などに注意して古典を読み、その世界に親しんでいる。(伝国一ア)

4 単元の評価規準と評価計画・指導計画

時	指導計画	評価規準			
		国語への関心・意欲・態度	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
1	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の見通しをもつ ・歌物語の形態を知る ・万葉集を音読し、和歌のリズムに慣れる。 	<p>モデル文を通して歌物語のイメージを広げている。</p> <p>和歌の音読を通して、言葉の響きやリズムに親しみ、和歌への関心を広げている。</p>		<p>和歌の効果的な表現、語句の使い方に注意して読んでいる。</p>	<p>歴史的仮名遣いや句切れなど古文特有の表現に注意し、古文と現代文の違いを意識して音読している。</p>
2 3 4	<ul style="list-style-type: none"> ・万葉集を読み味わう ・全員で同じ和歌、同じ資料を使って歌物語を書く。 ・歌物語を書く和歌を選ぶ 	<p>和歌に表れているものの見方や考え方について自分の意見をもっている。</p> <p>歌物語を書くことへの見通しをもっている。</p>		<p>和歌に表れているものの見方や考え方について自分の知識や経験と関連付けて読んでいる。</p> <p>歌物語を書くために必要な情報を読み取っている。</p>	<p>歴史的背景などに注意して読み和歌の世界に親しんでいる。</p>
5	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で選んだ和歌をもと歌物語の設定を決める。 	<p>和歌をさまざまな見方で読み味わおうとしている。</p>		<p>歌物語を書くために必要な情報を資料から選択し、自分の表現に役立てている。</p>	
6	<ul style="list-style-type: none"> ・歌物語の作成と交流 	<p>作品交流を通して、和歌への理解や自分の物の見方、考え方を深めている。</p>		<p>歌物語を書くことで心情やその背景について自分の考えを深めている。</p>	<p>歌物語を書くことで古典に対する自分の考えを文章で書き表している。</p>

5 本時の指導計画

(1) 目標

- ①和歌の情景や歌人の思いをより詳しく伝えるために必要な情報を選択する。
- ②選択した情報から和歌のイメージを広げ、歌物語の構想をたてる。

(2) 予想されるつまずきと対処法

- ①歌物語の材料を見つけられない。

→歌物語を作ることを第1次で予告し、和歌を学習する際に構成要素（背景・人物・事件）＝「いつ、どこで、だれが、どうした」歌なのかを考えながら読むよう指導する。

- ②資料の何をどのように活用していいのかわからない。情報の抜き出しができない。

→各自で選んだ歌物語を書く前に全員で同じ和歌と資料を使用し、物語の設定と歌物語を書いてみる。

→和歌について疑問をもった点を列挙させ、疑問点を資料から探すよう指示する。

- ③状況や心情を想像することができない。

→ペアまたはグループで手がかりとなる言葉を見つけさせる。

(3) 展開

時間	学習内容 「主な発問・指示」	生徒の活動 (◇) 「予想される生徒の反応」	留意点・評価 (○) UD の視点による手立て (★)
5分	1. 選んだ和歌の確認 「どんな疑問をもったからその歌を選んだのか」 2. 学習課題の提示	◇選んだ歌とその理由を発表しあう。	★課題を立てる (焦点化)
万葉集から選んだ珠玉の一首について、歌物語の設定を決めよう。			
38分	3. 歌物語の形態の確認 「歌物語の中から赤人の和歌の部分だけを抜き出してみる」 「物語やお話に絶対欠かせない構成要素は何か」 「和歌に表れていないいろいろな事柄はどのようにして設定したか」 「歌に表れていないどんな内容を盛り込んだら物語は面白くなるか」 4. 歌物語を書くために引用できる情報を選ぶ。 「資料や便覧、図書を使って歌物語に必要な情報を探さない」 5. 歌物語の設定をまとめる 「和歌から読み取ったこと、資料を読んでわかったことをもとに歌物語の設定を書きなさい」	◇前時に全員で作った歌物語をイメージする。 ◇歌物語は、背景 (いつ・どこで)、人物 (誰が・誰と)、事件 (どうした) が大枠になることを押さえる。 「資料をみた」 「資料の言葉から考えられる事柄を想像した」 ◇赤人の歌物語にはどのような要素が取り入れられているかを思い出す ・なぜすみれを摘みに行ったのか ・なぜ野宿したのか ・なぜ野原が懐かしいのか… ◇自分が選んだ和歌で歌物語を書くために必要な情報を考える。 ◇便覧で歌人のプロフィールを調べる。 ◇資料や参考図書で歴史的背景や歌の詳しい背景を調べる。 ◇便覧や資料の内容を参考に、和歌に直接的に表現されていない状況を考え、ワークシートにまとめる。	★例文は設定する事柄を色分けして提示 (視覚化) ★歌物語を書くために必要な具体的条件を示す (焦点化) ○構成要素を比べると短歌と歌物語では内容が異なってもよい。 ★選んだ和歌の歌物語を書く前時に全員が同じ和歌と資料を使い、歌物語を書き、設定の手順をつかむ。(スモールステップ化) ★グループまたはペアの相手と相談しながら必要な情報を探す (共有化) ★前時の手順と同様、最初にもった和歌に対する疑問を解決する情報を探せばよいことを示す (焦点化・手がかり・スパイラル化) ○歌物語を作るのに必要な情報を多方面から積極的に収集しようとしている。 ○和歌の内容から飛躍しすぎないために便覧や資料から読み取れる情報を根拠とした設定になるよう注意する。
7分	6. 今日のふりかえり 「ストーリー設定で着目した点、調べてわかったこと、どんな歌物語を書いてみたいかを発表しなさい」	◇活用した資料や情報、新たにわかった歴史的背景や歌人の心情を発表する。	★発表のフォーマットを示す。(焦点化)

◆明確な授業のゴール

和歌を歌物語に再構築するために、目的に合った資料や情報を選び、歌物語の設定を書くことができる。



◆そのために必要な押さえておくべきこと

- ①物語の構成要素（背景・人物・事件）を理解している。
- ②和歌に詠まれた情景を読み取っている。



◆予想されるつまずき

- ①歌物語の題材を見つけれられない。
- ②資料から情報の抜き出しができない。
- ③状況や心情を想像することができない。

◆つまずきをクリアさせるための工夫・配慮（UD）

①、②について

【No.4 スモールステップ化、No.8 焦点化、

No.13 手がかり】

選んだ一首で歌物語の構築をする前に、全員同じ和歌と資料を用いて歌物語を書き、設定の手順をつかませる。

手がかりとなる情報は、最初にもった和歌への疑問を解決する情報を探せばよいことを示す。

③【No.4 スモールステップ化・No.12 共有化・

No.13 手がかり】

前時に学習した手順を示し、ペアまたはグループで話し合うことにより情報の共有化を図る。

本時のUD全体構造図

万葉集から選んだ珠玉の一首で作る歌物語①設定編

組 番 氏名

☆これぞ珠玉の一首☆

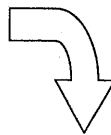
☆この歌の//ストロキアスなどいじると魅力を感じたところ☆ (←ストロキアス)

- ①なぜ、
- ②なぜ、
- ③なぜ、
- ④
- ⑤

魅力は…

☆物語の構成要素☆ (←画面)

- 背景 ()
- 人物 ()
- 事件 ()



この三つは物語の骨なのでこれらに肉づけをしていくとわかりやすくなる。
 どんが、どうして、どれぐらい、
 どんがふらじ、どんな気持ちで…など

☆物語の設定にはどんな真目を入れたらわかりやすくなるだろうか☆ (←画面・ストロキアス)

職業、性格、

☆物語に引用したい情報☆ 資料を見て知ったこと・解決した疑問 (←ストロキアス)

項目	知ったこと・解決した疑問

☆和歌や資料からわかったじぶをききぬち☆ (←ストーリー、ストーリー、画面)

ききぬちの内容

- ①和歌から読み取ったこと
- ②資料から読み取ったこと
- ③和歌や資料の言葉をもとに想像したじぶがらや出来事
- ④和歌や資料の言葉をもとに想像した歌人の気持ち

歌人の心情の想像	ことがらの想像		資料から読み取ったこと		和歌から読み取ったこと	
	ききぬち	は	ききぬち	は	ききぬち	は
ききぬち	ききぬち	は	ききぬち	は	あなたに主人公 プロフィール (自分を思い描いて)	
ききぬち	ききぬち	は	ききぬち	は	いつ (季節・時間)	
ききぬち	ききぬち	は	ききぬち	は	ききぬち	
ききぬち	ききぬち	は	ききぬち	は	ききぬち	

☆ふりがえり☆

- ・ストーリー設定で書目したじぶがらや心情は
- ・書いてみたら歌物語の内容は